

『あったかい言葉がけ運動』によるまちづくり

垂井町教育委員会 生涯学習課

1 はじめに

『あったかい言葉がけ運動』は、「全ての大人でいじめをなくす」ことを目的とした「子どもを地域で守り育てる県民運動」の一環として、学校のみならず地域全体でいじめの未然防止を推進していきこうと始まった運動です。垂井町では平成25年度から町青少年健全育成町民会議を窓口として、平成26年度には学校教育課が主管とする町道徳教育推進協議会（教育委員会、社会教育関係の各団体代表、学校教育関係の各代表により構成）も加わり、一層の活動の充実を図ることで町ぐるみで『あったかい言葉がけ運動』に取り組めるように働きかけてきました。また、安心して住みやすいまちづくりにつながるよう「あったかい言葉」を募集し、集まった作品は、町青少年健全育成町民会議及び町道徳教育推進協議会にて選考作業を行い、優秀作品を毎月の「広報たるい」に掲載するとともに、垂井町版「あったかい言葉集」を発刊し、町民に紹介しています。

コロナ禍で、思うような社会生活が営めない中でも、「人と人との身体的な距離は取るけれど、心と心の距離は密にする。」という思いを大切にしながら、活動に取り組んできました。

2 挨拶・声かけから始める青少年健全育成への取組

垂井町第3次教育ビジョンでは、『全ての青少年が、成長の過程を通して、周囲の人々から愛情と思いやりと責任をもって見守られ、信頼をもてる人とのつながりの中で困難を克服し、可能性を発揮できることが望まれます。そのために、青少年自身が成長していく喜びを感じることができるよう、青少年育成活動の充実や、社会全体で青少年を育成していく啓発活動の推進に取り組むこと』を育成方針としています。

垂井町では、子どもたちの「心」と「体」のバランスがとれた健全育成のために、園・学校、家庭、地域が一体となって、安全で安心な居場所を確保するなど、地域社会全体で見守り、育てる環境作りを大切にしています。

3 『あったかい言葉がけ運動』の推進活動の実践

(1) 募集方法

- ① 垂井町内全小学校（7校）、中学校（2校）、高等学校（1校）、まちづくり協議会（7協議会）に作品募集及び提供に関する依頼を行う。
- ② 募集期間は、前期間（7月末）、後期間（12月末）の2回とする。
- ③ 各学校及びまちづくり協議会にて、10作品程度を選考し、教育委員会へ提供する。

(2) 作品選考

- ④ 提供された作品は、前期は「道徳教育推進協議会」、後期は「垂井町青少年健全育成町民会議運営委員会」にて、心に残った作品及び印象深かった作品の選考を行う。

(3) 啓発活動

- ⑤ 選考された作品中、得票数の多い作品を中心に、毎月発刊される垂井町の広報紙「広報たるい」に掲載し、広く町民に啓発する。
- ⑥ 選考された作品中、得票数の多い作品を中心に、年度末に「垂井町版 あったかい言葉がけ集」を発刊し、町内全小中学校、高等学校及びまちづくり協議会に送付し、広く町民に啓発する。

4 応募作品数の推移

活動を始めた平成25年度の応募作品数は1,968点でしたが、現在では、約4倍の募集作品数となっており、運動の広がりを実感しているところです。また、児童生徒数が減少する中にもかかわらず、令和元年度からの応募作品数は8,000作品を上回る数値で推移しています。令和4年度の県内における応募作品数の比較をみると、垂井町の応募作品数は、岐阜県の応募総数の

約1割、西濃地区の応募総数の約3割に達しています。

このような数値で応募作品数が推移していることは、小中学校や不破高校において日常的に「よいこと見つけ（心の花カード、ぽかぽか言葉、かがやきみつけ等）」や「〇〇さんへのメッセージ」、「ピンク・リボンデー」など、仲間を思いやり、仲間を励まし、勇気づけられた言動を奨励する取組が行われていること、また、まちづくり協議会を中心に各地域において、作品提出の呼びかけを行っていただいたことが要因だと考えています。

今後も、心が温まる心地よさや優しさが共有され、あったかい言葉がけ運動の広がりとともに、お互いを気遣い、思いやりの心をもって相手に接することのできる、心豊かな町づくりを目指していきたいと思ひます。

【あったかい言葉がけの応募作品数の年度ごとの推移】

年 度	児童・生徒	保護者・教職員・地域	合 計
平成25年度	1,611	357	1,968
平成26年度	4,045	873	4,918
平成27年度	7,659	1,031	8,690
平成28年度	9,608	1,028	10,636
平成29年度	4,989	1,324	6,313
平成30年度	6,428	1,042	7,470
令和 元年度	7,243	990	8,233
令和 2年度	6,778	1,642	8,420
令和 3年度	6,112	1,162	7,274
令和 4年度	6,888	1,234	8,122
令和 5年度	6,951	1,170	8,121

5 今後の課題

- (1) 広く多くの町民にあったかい言葉がけ運動が認知されるような啓発活動を行うことで、多くの作品提供を求め、町民全体での取組に近付けていきたいと思ひます。
- (2) 「あったかい言葉」の裏にある思いや願いをくみ取ろうとする意識をもたせたいと思ひます。ただ単に、かけてもらって嬉しかっただけでなく、その言葉の裏にある思いや願い、価値について考えることこそが本当の意味での「あったかい言葉がけ」につながるものと考えます。



あったかい言葉がけ運動

「たくさんのご応募ありがとうございました。ご応募の中から一部を紹介いたします。(原文のまま掲載)」

体調が悪いと、気にかけてくれる生徒の一言で、とても心が温まります。以前、喉の調子が悪かった時、「先生、声ひどいよ。大丈夫？」「もう治った？」「何人も生徒が心配してくれました。」「少しよくなったよ。」「とほひい声のまま返事をすると「早くよくなるといいですね」と、さらに返してくれました。周りのことを気遣う言葉を自分もかけていきたいと思ひました。 【不破中教職員】

6月ごろに、放課後に学校へ遊びに行くところや、地いきの方に「こんにちは」「あいさつをしたら、「こんにちは。元気なあいさつだね」「こんなに元気なあいさつをしてくれた子、初めてみたわ。本当にありがとうね」と、とてもほめてくれてうれしかったです。改めて、あいさつはとてもいいものだと思ひました。 【宮代小5年】

我が子は、登校前の班長をしているのですが、登校前の低学年の保護者の方から「この班になって、登下校中に楽しいクイズや会話をしてくれるから、楽しく登下校できるようになりました」と声をかけてもらい、我が子も頑張っているんだと嬉しくなりました。 【垂井小保護者】

私は応援団に選ばれたけれど、友だちはなれなかった。でも、選ばれなかった友だちが頑張っているから、「頑張って」と言ってくれた。そう言ってくれた友だちの分も頑張ろうと思ひました。 【東小6年】

クラブで落ち込んでしまったときに、「大丈夫？」「話聞こうか？」と優しく言ってくれて、気が楽になったし、その声のおかげでやる気もだんだん出てきました。頼れる仲間がいることを改めて実感できました。 【府中小6年】

放課後、学校へ遊びに行く時、地いきの人が、「気を付けてね。行ってらっしゃい」と言ってくれたり、帰ってきたら「おかえり」と声をかけてくれたりするので、うれしかったです。しかも、遊びに行く時、毎回言ってくれるのでうれしいです。 【表佐小5年】

令和4年度 かけてもらってうれしかった

あったかい言葉 X



垂井町青少年健全育成町民会議
垂井町道徳教育推進協議会